

## 小兒の精神過勞

アルフレッド、チエルニ

現今一般に懼るべきは、小兒の精神過勞なり、  
 之は生長後神經病を起すこと多し、此過勞は主に  
 學校課業に基くが故に、初年級には詩歌を省き、  
 或は就學年齡を延長せんとし、多數者は遠足等を  
 以て就學時間を減じ、或は休暇の期限を延長せん  
 と唱ふるも、未だ一定の確論なし、然れども學校  
 の課業を以て兒童に有害なりとするは近世一般の  
 思想なるが如し、「エルレンキール」氏が學校は精  
 神を數ぶると説きしに當り之に賛成する者非常に  
 多かりき。

元來學校なるものは兒童の身體及精神に適當す  
 るを要す、又精神病性の昂進せる兒童に對しては  
 特種の學校を設け、授業を制限する要あり、併し  
 特種學校を設けること、左程多數を要せぬ、何と  
 なれば神經病の原因は、學校よりも家庭よりも

多し、兒童の精神過勞は就學以前に既に存す、兒  
 童が既に談話するを得れば諸種の質問を試み、純  
 へず新知識を得て、興味を感じながら、實地學修  
 を爲し、何等時間を制限する等の事なきは常なり、  
 然るに大人は兒童の聞くを喜びて際限なく語り、  
 彼等の年齡發育に相當するや、否やを顧みざるを  
 多し、此結果として初生年に於て既に神經病の徴  
 候を現はすに至る、此弊害を去るには年少き兒童  
 は可成兒童の間に成長せしめ、大人と接觸するこ  
 と少くするに在り、斯く兒童同士を放置すれば、  
 諸種の質問の如きは己まん、孤獨の兒童は自己の  
 仕業の變化を好み、從つて其退屈を防ぐには諸  
 種の玩具を備ふるを要す、一家族中の兒童と玩具  
 の數は反比例を爲すとは殆ど事實なり然るに兒童  
 が相集りて遊ぶや、玩具も之を變換する必要もな  
 く、大仕掛にて無害なる遊戲を爲すを以て、兒童  
 として別に要求する所なし。

意志の支配力を養ふことは教育上大切にして兒

童相集り遊ぶ時は此力を養ふこと多し、何となれば兒童にして若し固有の自我性を主張すれば共同遊戯は行ふを得ざればなり、感情の強き兒童は遊戯の際體温を起し、發汗すること容易なり又顔色の蒼白となることあるも之は過勢に歸すると見做さる、然れとも是れ精神過勞の徴なり頬の紅色となるは却て害なし。

又兒童を登校せしめず小學一學年の課業は自宅にて教授する者多きが、然れども精神健全の兒童は既に滿六才に至れば、家庭に於て終日を適當に暮すこと容易ならず、夏季休業の際の如き兒童が満足して時日を消すことを得れども、冬季休業の時に至りては極めて華麗なる室に在りても、倦厭の情を催し、之が爲め精神活潑なる兒童は、神經病を起すことあり、此の如きは學校に於ける努力よりも怖るべきなり、倦厭及自己の身體に注意を集中することは六歳前後の兒童にては學校の授業に依りて之を防ぐことを得るなり、自宅教授は時

間を制限する便あれども兒童が注意に努むる所は學校の時間よりも大なり自宅教授の弊の尙大なるものは兒童が無用の時間を有するに過ぐ、經驗によれば第一、年の際自宅教授を受けたる者は將來入學後學校の課業に耐ゆること困難なり。

「人性三の五」

▲世界的宗教 英國の有名なるアンニー・ベザント夫人は同國の一雜誌に於て從來の諸宗教は今後全く信徒を失ひ世界の人類は一般に世界的宗教を信するに至るべしと説き世界的宗教の如何なるものなるかを想像して曰く世界的宗教は一の經典を有せず科學に關する著書は總て之を尊敬し倫理と毫も撞着するとなく人類と宇宙との關係を人に知らしむるものにして萬世不變の真理を傳ふるものならざるべからず換言すれば從來の諸宗教は世界的宗教の一分派たるものにして世界的宗教は悉く此等を總合したる大合同的の宗教なりと